

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000174
法人名	医療法人財団 尚温会
事業所名	グループホーム 伊予の郷
所在地	愛媛県伊予市八倉919-5
自己評価作成日	平成28年7月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年 8月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしく過ごせるように、本人の意志、決定を重んじ希望を聞きながら、支援している。開設当初から手作りの食事を大切にしており匂いや音などの五感を刺激し食べる事を楽しみにしている入居者さんに満足してもらえるよう、努力している。年2回の家族会でも餅まきをし、入居者、家族、職員が一体となり、皆で楽しみ昔を思いだし、交流を図っている。また理念を大切に「ゆったりと自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」「自分で出来る喜びと達成感のある暮らし」「自分らしさや誇りを持った暮らし」「生活の張り合いや楽しみの暮らし」の実現に向け、個別ケアにも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道後平野の南に位置する山の中腹に事業所はあり、母体法人の大きな建物と隣接しているため遠目からもよく見え緑の映えるような外観色のため、道後平野の目印になる象徴的な建物である。事業所は、法人全体で高齢者の生活を支える仕組みの中で、共同生活の枠組みを大切に考えており、利用者が「他者を認めることにより生活に張りが出る」を支援している。普段の楽しみでは、食べることが要になる。料理は手作りにこだわり、出汁を取り、ドレッシングを作りと本格的である。特筆すべき点は、開設以来16年間継続していることである。その間には、利用者の入れ替わりや状態に変化、職員の変動等もあった。しかし利用者の楽しみを支援する意気込みは変わることなく継続しており、一貫してこだわった食事を提供できている継続は力なりを実感できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム伊予の郷

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 野田 いその

評価完了日 平成28年7月17日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は理解しており努力はしているが、十分な実践に繋がっていないとは言えない。	
			(外部評価) 事業所の理念は、高齢者の共同生活を支える基本的な言葉でままとまっているため、各人の日常に照らし合わせ考えを深めない実践が難しい。「ゆったりと、自由な暮らし」のためには、個人の「自由」と他者の「自由」に配慮しながら、共同生活の中で、利用者の状態を見極め利用者本位のケアができるよう、職員は理念を意識しながら業務に励んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 閉鎖的な地域で、地域との関わりが難しく、行事等（納涼祭・秋祭り）の案内をし交流を持っている。	
			(外部評価) 事業所の立地している周辺は昔からの集落であるため、近所づき合いの壁が厚いのは事実であるが、過疎化が進む地域を法人が再構築するとの思いで地域行事を復活させたり、夏祭りには多くの参加者があり隣町からの参加もあるなど広がりを見せている。法人と地域が強い繋がりを持つことで、その催しに事業所の職員や利用者が参加し、地域行事の盛り上げ役を担っている。	事業所は、母体医療法人の大きな建物に隣接しており、地域住民は一体のものであると認識していると思われるため、単独で「地域の一員」と言う対等な関係を構築することは難しいかもしれない。法人と共に地域を盛り上げていく中で、認知症ケアの実践者が事業所には多く存在していることを地域にアピールし、事業所の個性を打ち出すと、地域の信頼を得られることにつながるのではないかと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議において認知症の勉強会をしたり、看護学生の実習の受け入れや中学生や一般のボランティアを受け入れ、認知症の理解に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 議題として取り上げ実施出来ている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は制度化された当初から取り組んでいるため、議 事録を見ても色々な取組みをしていることが分かる。利用者と その家族等が全員参加が理想であり、多くの事業所は、参加者 を集めるのに四苦八苦しているようであるが、管理者の開設当 初から変わらない真摯な前向きな姿勢が家族に認められている ため、家族が全員参加し有意義な運営推進会議が行われている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) メールや電話で連絡は取れており、運営推進会議にも参加して もらっている。</p> <p>(外部評価) 母体法人が地域にとっての医療・福祉の核になっているため、 市担当者だけでなく、社協等の関係者や福祉事業所とは連携体 制がある。また、法人も半世紀、事業所は16年と事業運営には 歴史があり、時代に合わせて多方面で福祉事業を展開をしてい る。母体法人は、地域と行政を結ぶ役割を果たしており、事業 所は認知症高齢者の生活支援の専門家として活動をしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 職員間で身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 身体拘束ゼロは法人の課題でもあり、全体で取り組んでいる。 また、事業所では理念と関連付けて身体拘束ゼロを考えてい る。「ゆったりと、自由な暮らし」「自分でやれる、喜びと達 成感のある暮らし」など理念は全て身体拘束の対極にあり、身 体拘束をすると理念の実践にならないため「ちょっと待って て」のような声かけはしないよう職員全員で確認している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ケアの中では常に注意を払い話し合いを持っているが、全体での学ぶ機会がなかなか取れていない。カンファレンスで話しあうことは多い。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 個々には学ぶ機会もあり、理解しているが、全体としての勉強会等が、少ない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その都度、文書や口頭で、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、面会時に近況報告をし、意見や要望を聞くようにし、改善点があれば話しあうようにしている。 (外部評価) 事業所での生活が長くなると、家族等は意見を求めても「お任せしていますから」との返答が多くなる。管理者は、言いたいことや確かめたいことはあるはずだと思い、管理者は家族等との会話を広げる手段として、家族全員参加の家族会が開催できるよう努めているほか、「伊予の郷便り」と「利用者の日常」を送るなどしている。面会の多い事業所であるが、日頃の些細な会話こそが重要であると事業所は捉えているため、自然と会話も弾む日常になっている。「雑談の中に本音があります」と管理者は、家族等との会話を増やすことに余念がない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意識調査や面接は行っているが、十分反映できていないので今後努力したい。 (外部評価) 法人で働く職員は600名を越えており、その一人ひとりが代表者と話し合う機会は少ないが、職員の勤務状況を段階別に評価するテクニカルラダーという大きな法人ならではの取り組みがあり、様式も法人独自のもので、各部署の職員の意見を積み上げ、同じ事柄でも経験年数が長いと深い意味を問うようになっている。職員はこれを媒体として、法人が求めているものを理解し、法人は個人の意見を吸い上げ業務に生かせるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) テクニカルラダー等を実施し、勤務状態の把握に努め、個々が安心して働ける状態を作っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 情報発信は十分にしており、各自、技術や知識を身に着けるよう努力している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修会に参加したり相互訪問をする取り組みはしており、今後も続けていきたい。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に本人に面会に行き、話を聞き、不安が少しでも軽減できる声掛けを職員で共有できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) アセスメントで入所前、入所時、家族からも十分に話を聞くよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) アセスメントしたことと、入所してからの本人の様子を見て出来る事を見極め、いい居場所ができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事などの役割作りをして、職員と共に楽しみながら、生活している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には近況を報告したり家族の話聞き、情報交換したり、家族が通院に付き添ったり、食事介助に来てくれたり、家族のそれぞれの状況に応じて協力してもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 生活歴等を参考にこれまで大切にしてきた、馴染みの人や、場所を途切れないように支援している。	
			(外部評価) 管理者は長年、認知症の人に携わっていると、「家に帰りたい」といっても元に住んでいた家とは限らないことを承知しているため、馴染みの人や場もその人の「今の状況」を良く理解しないと対応を間違うと考えている。具体的には、認知症の程度、事業所での生活期間、その日の体調や機嫌等を見極め、「馴染み」を判断することである。それを判断した上で、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングに集まり、職員が間に入り、利用者同士が関わり合えるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去になってもその後の様や経過の連絡を取り、相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの希望、意向は把握していて努力はしているが、充分とはいかないので、引き続き、本人本位のケアをしていきたい。	
			(外部評価) 管理者は、利用者の心身の状態が変われば、意向も変わる場合があるため、ある程度の期間毎に利用者の思いを確認しなくてはならないと考えている。記録も必要であるが、それはあくまでも利用者の過去のことで、今を知るためには職員は先入観をなくし利用者を見る必要があると管理者は考えており、口癖のように「その人を見て」と利用者のことを理解することに余念がない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 以前の生活歴を参考にして、家族の面会時に会話することで、サービスの向上に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェックや本人の様子で体調を把握し、ホームでの生活の中でできることを発見しケアに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 一週間ごとに評価し、面会時や家族会などで、家族と話し合い、本人の意向を聞き介護計画に生かしている。</p> <p>(外部評価) 介護計画を作成するにはアセスメントは不可欠で、利用者理解には重要なプロセスである。そこで、管理者は敢えて利用者の担当職員にアセスメント票の作成を任している。職員のスキルアップには一番有効と考え、管理者は職員との話し合いに随分の時間を費やしているようである。管理者のサポートもあり、計画書は利用者の状態に即したものになっていると言える。</p>	<p>現行の手法では、事業所の関係者は利用者本人を知っているため、記載表現にこだわる必要性はないかもしれないが、他者から見るとアセスメントや介護計画と齟齬があるように思える。管理者交代の時期でもあり、新人の職員のためにも言葉や表現にこだわった記載方法が望まれ、モニタリングの精度を上げる取組みにも期待したい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別記録にその日にあった特別な事を取り入れ、問題のある所の気づきを記入し、職員間で情報を共有している。ミニカンファやカンファ、申し送りで周知している。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) ボランティアを受け入れたり、近隣への買い物で、なじみの場所へ行くことで支援している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域のボランティアの力を借りたり、消防訓練で地域の消防団の協力を得たり、近くの商店へ買い物へ行き楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 母体病院の医師の往診あり、家族と話し合いながら、それぞれの適切な医療を受けている。また個別のかかりつけ医とも、情報交換し、連携をとっている。</p> <p>(外部評価) 隣接している母体法人のリハビリテーション病院がほとんどの利用者のかかりつけ医である。在宅復帰やへき地医療支援に力を入れていた病院のため、入居前からかかりつけ医であった利用者も少なくない。特別な診察が必要な利用者は他の専門病院がかかりつけ医であるが、往診が可能な母体病院が日常の見守りを行っている。事業所には看護職員はいないが、隣設して病院があることは、利用者にとっての安心感が高い。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 体調の変化に応じ、訪問看護と連絡を取り、受診したり、経過観察し、週1回の訪看の訪問日には報告し体調管理に努めている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) できるだけ早く退院できるよう、面会に行き病状を聞いたり、情報交換し、その人の性格や生活習慣など、情報提供することで、協働できている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) その時々、家族と主治医と話し合いながら、医療と連携し、重度化についてもその都度、話し合いながら、チーム支援に心掛けている。</p> <p>(外部評価) 当初、「法人全体で高齢者を支える」という方針で、その人の状態に適している場所に住み変える仕組みであった。管理者は、事業所のエレベーターにストレッチャーが乗らない、機械浴がないなどをその証だと言うが、少し前から本人や家族の意向を大切にしたいと重度化の対応や看取りの取組みを行っている。医療行為はしないスタンスは当初と変わらず、管理者はその線引きを家族に丁寧に説明し理解してもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 不定期ではあるが、職員の緊急時の対応の講習会を行っており、緊急時の連絡方法も皆で周知している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に一度はホーム内での火災を想定した火災訓練を行い地域の消防団の協力を得ている。 (外部評価) 災害時の避難訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれ、消防署の指導を受けながら定期的に行っている。病院や老人保健施設との連携も視野に入れており、大掛かりであり本格的でもある。避難計画書も備え、利用者の命を守るという思いで訓練を実践している。前面道路や病院等へのアクセスは急な坂道なので、避難訓練では机上で把握できないことが毎回起きしており、課題を決めて真摯に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人に声掛けしてから、居室に入る。また、さりげないトイレの声掛けをし、本人のプライドを傷つけないように配慮している。 (外部評価) 事業所が取り組んでいる「自分らしさや誇りを保った暮らし」は、人格を大切にすることの上に成り立っている。高齢者が誇れる暮らしには、自分が大切にされているという思いが重要で、まさしく人格の尊重である。昼食時、隣の利用者が「私が若い時には…」と繰り返し話しかけてきたことは、多分本人が一番輝いていた時代を説明したいのだろうと思う。来客へのおもてなしで利用者は話しかけているが、これができるのは事業所が利用者を尊重してくれる環境だからこそ、他人にも前向きな話題を提供できるのだと感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人が選択しやすいよう、声掛けし自分で選ぶ機会を作っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ意向を尊重するがその時々体調や状況に合わせて対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 馴染みの美容室に行ったり、出かける前には好みの服に着替えたり、その人に合わせた支援を心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえをしてもらったり、食器洗いや食器拭きを一緒にしてもらい、それぞれの出来ることをやることで、楽しまれている。	
			(外部評価) 管理者は「食事は出汁を自分で取ったもので味付けしています」と簡単に答えているが、開設後16年間継続していることには、ただただ頭が下がる。利用者の状態の変化もあつたろうし、職員の変動もあつたにもかかわらず、利用者に喜んでもらいたいという一貫した姿勢は崩さないことに、管理者の利用者への思いの深さが感じ取れる。「やっぱり人は食べるのが基本だし、何より楽しみですから」と調理の手間より利用者の楽しみを優先させているところからも理解できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食べる量はご飯の量で調節したり食事摂取量はチェックし、特に必要な人に関しては水分量もチェックしている。1汁2菜に心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできない人は毎食後口腔ケアをし、出来る人に関しては声掛けし清潔に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 自分で出来ない人はトイレ誘導、介助し、排泄を促して、出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。入所時には排泄パターン表を付けて、その人のパターンを把握するようにしている。」</p> <p>(外部評価) 昼間はトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも使用し、利用者の生活の質を見極めて対応している。入口の前にカーテンを吊っているトイレがあったが、「利用者が一人で車いすを使っている場合、扉を閉める動作が難しい利用者がおり職員が付き添うのを嫌がるため」と説明を受けたところなど、さり気ない配慮であるが、利用者の尊厳を守る支援であると言える。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 便の硬さや、様子によって薬を調節したり、毎日のおやつにヨーグルトを飲むよう心掛けている。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) その人の体調やコンディションに合わせて、柔軟にその人に応じた方法で入浴支援している。</p> <p>(外部評価) 「利用者にゆっくりしてもらいたいから、入浴支援には時間をかけています」と管理者は話し、週2回の入浴が基本で1日3人程度の支援をしている。行事等で汗をかいた場合には、シャワー浴や足浴等も適宜提供しており利用者は満足している。職員は入浴支援時の利用者との雑談を楽しみにしており、1対1の利用者との会話はリラックスした状態で思わぬ本音も聞けるので、利用者理解の場として大切な時間になっている。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 1日のリズムのバランスを取りながら、本人の体調に合わせて、休息してもらっている。最近、高齢化、重度化により、昼に休む時間を作っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 調剤薬局と連携を取り、訪問看護にも連絡を取り、服薬支援できている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に合わせて出来ることをしてもらっている。毎月の行事やレクリエーション、音楽療法などで楽しめるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望には添えないが、外出して買い物を楽しんだり、ドライブをして気分転換している。家族の協力で出かける方もいる。	
			(外部評価) 母体法人の車両を使って遠出をする外出は年間行事で実施しているが、回数が限られているので、できる限り1階は庭に、2階は広いバルコニーで、外気浴するなどリフレッシュできるように支援している。自然の風や日差しを浴びることで季節を感じ、見当識障害の軽減を目指している。事業所が山の中腹にあり、眺めを遮るものがないため、道後平野が一望できる。夕暮れには夜景がきれいに見え、身近な庭で遠出をした感覚が味わえる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お小遣いはホームで預かっている。行事で出店を開きお金を使う喜びを感じてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 面会の頻度が多く、電話をかけてくる方は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの掲示をしたり、空調、照明を適切に使用し、居心地の良い環境を整えるよう努力している。	
			(外部評価) 事業所の敷地を広く確保しているため、建物もゆったりと造られている。車いすが二台すれ違える廊下とリビングダイニングが一体化しているデザインは広々としている。食事などくつろぎの時間は座る場所を変えることができ、居心地が良い。雨が降っても車いすでも利用者が毎日お参りができるよう1階の廊下の突き当たりにはお寺、2階には神社がある共用空間は利用者に好評である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下に椅子を置いたり、仲のいい人と隣に座れるよう配慮したり、居場所づくりをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時には、家族と相談し、なじみの物を持ってきてもらい、安心して過ごせるよう配慮している。	
			(外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所という居心地の良さが感じられる。法人所有のベッドを活用している利用者が多く、また、築16年の建物であるが、洗面器が各部屋に備えられ口腔ケア等衛生管理もできているほか、衣服も着やすいようきちんと整理されているなど配慮されており各部屋とも清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 役割作りをして、出来る事をしてもらい、自立に向けての環境づくりをしている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000174
法人名	医療法人財団尚温会
事業所名	グループホーム伊予の郷
所在地	愛媛県伊予市八倉919-5
自己評価作成日	平成28年 8月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年 8月 26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアを大切にその人らしさ(生活歴や残存能力を活かした活動)や楽しみのある(レクリエーションや外出など)質の高い生活を目指している。行事食や季節の食材を使った手作りで暖かくおいしい食事を提供し、昔を懐かしむ心を大切にしている。「来てみればみんな笑顔の伊予の郷」をモットーに又、地域密着型サービスに対しては、「地域社会に開かれたグループホームを目指すという、目標を立て、努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道後平野の南に位置する山の中腹に事業所はあり、母体法人の大きな建物と隣接しているため遠目からもよく見え緑の映えるような外観色のため、道後平野の目印になる象徴的な建物である。事業所は、法人全体で高齢者の生活を支える仕組みの中で、共同生活の枠組みを大切に考えており、利用者が「他者を認めることにより生活に張りが出る」を支援している。普段の楽しみでは、食べることが要になる。料理は手作りにこだわり、出汁を取り、ドレッシングを作りと本格的である。特筆すべき点は、開設以来16年間継続していることである。その間には、利用者の入れ替わりや状態に変化、職員の変動等もあった。しかし利用者の楽しみを支援する意気込みは変わることなく継続しており、一貫してこだわった食事を提供できている継続は力なりを実感できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

(評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム伊予の郷

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 野田 いその

評価完了日

平成28年8月1日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 運営理念を2か所に掲示しており、又勉強会を通じて理念を共有し実践に向けて努めている</p> <p>(外部評価) 事業所の理念は、高齢者の共同生活を支える基本的な言葉でまとまっているため、各人の日常に照らし合わせ考えを深めないと実践が難しい。「ゆったりと、自由な暮らし」のためには、個人の「自由」と他者の「自由」に配慮しながら、共同生活の中で、利用者の状態を見極め利用者本位のケアができるよう、職員は理念を意識しながら業務に励んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣ではなかなか機会が少ないが小学生の訪問、研修生、学生さん達の訪問が多くあり支援している</p> <p>(外部評価) 事業所の立地している周辺は昔からの集落であるため、近所づき合いの壁が厚いのは事実であるが、過疎化が進む地域を法人が再構築するとの思いで地域行事を復活させたり、夏祭りには多くの参加者があり隣町からの参加もあるなど広がりを見せている。法人と地域が強い繋がりを持つことで、その催しに事業所の職員や利用者が参加し、地域行事の盛り上げ役を担っている。</p>	事業所は、母体医療法人の大きな建物に隣接しており、地域住民は一体のものであると認識していると思われるため、単独で「地域の一員」と言う対等な関係を構築することは難しいかもしれない。法人と共に地域を盛り上げていく中で、認知症ケアの実践者が事業所には多く存在していることを地域にアピールし、事業所の個性を打ち出すと、地域の信頼を得られることにつながるのではないかと期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で民生委員の方や区長さんなど、地域の人々に向けていけるよう努めている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 定期的に運営推進会議を行い、民生委員の方、利用者家族を交え意見を頂いている	
			(外部評価) 運営推進会議は制度化された当初から取り組んでいるため、議事録を見ても色々な取組みをしていることが分かる。利用者とその家族等が全員参加が理想であり、多くの事業所は、参加者を集めるのに四苦八苦しているようであるが、管理者の開設当初から変わらない真摯な前向きな姿勢が家族に認められているため、家族が全員参加し有意義な運営推進会議が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 連絡会等にも参加して情報交換をしたり、市の行う研修会にも参加し協力関係を築いている。運営推進会議にも参加して頂き実状を伝えている	
			(外部評価) 母体法人が地域にとっての医療・福祉の核になっているため、市担当者だけでなく、社協等の関係者や福祉事業所とは連携体制がある。また、法人も半世紀、事業所は16年と事業運営には歴史があり、時代に合わせて多方面で福祉事業を展開をしている。母体法人は、地域と行政を結ぶ役割を果たしており、事業所は認知症高齢者の生活支援の専門家として活動をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 勉強会を通じて学び、ミーティングなどで話し合い全員がしっかり理解し身体拘束のないケアを心掛けている。	
			(外部評価) 身体拘束ゼロは法人の課題でもあり、全体で取り組んでいる。また、事業所では理念と関連付けて身体拘束ゼロを考えている。「ゆったりと、自由な暮らし」「自分でやれる、喜びと達成感のある暮らし」など理念は全て身体拘束の対極にあり、身体拘束をすると理念の実践にならないため「ちょっと待ってて」のような声かけはしないよう職員全員で確認している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会を開き言葉がけによる制止等、職員間で話し合い防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に行きそれを元に勉強会を開き各自把握しているが、活用する必要性が今の所見当たらない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) マニュアルがありその都度十分に説明をし、理解、納得をしてもらっている	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等でも、面会時には個々にも要望や意見を出してもらえる機会を設け意見を聞くようにしている。毎月ケアプランを送付して伝えることもできている	
			(外部評価) 事業所での生活が長くなると、家族等は意見を求めても「お任せしていますから」との返答が多くなる。管理者は、言いたいことや確かめたいことはあるはずだと思い、管理者は家族等との会話を広げる手段として、家族全員参加の家族会が開催できるよう努めているほか、「伊予の郷便り」と「利用者の日常」を送るなどしている。面会の多い事業所であるが、日頃の些細な会話こそが重要であると事業所は捉えているため、自然と会話も弾む日常になっている。「雑談の中に本音があります」と管理者は、家族等との会話を増やすことに余念がない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日常的にも月1回のミーティングを開いている (外部評価) 法人で働く職員は600名を越えており、その一人ひとりが代表者と話し合う機会は少ないが、職員の勤務状況を段階別に評価するテクニカルラダーという大きな法人ならではの取組みがあり、様式も法人独自のもので、各部署の職員の意見を積み上げ、同じ事柄でも経験年数が長いと深い意味を問うようになっている。職員はこれを媒体として、法人が求めているものを理解し、法人は個人の意見を吸い上げ業務に生かせるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ラダー（介護技術に関するチェックシート）や人事考課を行うなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 機会を出来るだけ多く確保できるよう、研修会等の情報を発信し、また日程等にも配慮して受講しやすいよう支援している。ホーム内でも勉強会等で受講した内容を報告して共有している	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 連絡協議会の勉強会や研修に参加したり、他グループホームの運営推進会議に参加したりとサービスの質の向上に努めている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 家族や本人からの要望やバックグラウンドに基づき信頼関係を築けるよう努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時に家族さんからの要望も含め、記入してもらっているまたホーム長より説明する際にも直接話をする場がある。見学・相談は随時行っている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 介護支援専門員と相談しながらその人の望むサービスを提供が提供できるよう努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 残存機能を活かし、役割を見つけることによって本人と職員の助け合う関係が築けている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に少しでも関わってもらえるよう、担当がその月の様子を知らせるお便りを出したり、その都度電話をし様子を伝え、共に支え合う努力をしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外部からの訪問者もあり馴染みも人や場所との関係が途切れないようにしている。家族の協力もあり馴染みの場所へ行ったりする (外部評価) 管理者は長年、認知症の人に携わっていると、「家に帰りたい」といっても元に住んでいた家とは限らないことを承知しているため、馴染みの人や場もその人の「今の状況」を良く理解しないと対応を間違うと考えている。具体的には、認知症の程度、事業所での生活期間、その日の体調や機嫌等を見極め、「馴染み」を判断することである。それを判断した上で、馴染みの関係が継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お互いの相性にも考慮し、座席やできる手作業などの環境をつくっている	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 出来る限りの支援続けている。母体病院に入院した場合は時々面会に行くなどして相談や支援に努めている	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常会話の中から、希望や意向を聞き取りその都度対応するよう心掛けている。個別ケアを取り入れたり、カンファレンスで一人一人のケアを検討し、対応を考えている (外部評価) 管理者は、利用者の心身の状態が変われば、意向も変わる場合があるため、ある程度の期間毎に利用者の思いを確認しなくてはならないと考えている。記録も必要であるが、それはあくまでも利用者の過去のことで、今を知るためには職員は先入観をなくし利用者を見る必要があると管理者は考えており、口癖のように「その人を見て」と利用者のことを理解することに余念がない。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に把握するバックグラウンドをもとにサービスを組み立てている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の記録を毎日欠かさず、なおかつ申し送りによって職員間の情報把握を徹底している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプランを作成し、毎月評価、カンファレンスをしている。その結果を家族にお手紙にて報告している (外部評価) 介護計画を作成するにはアセスメントは不可欠で、利用者理解には重要なプロセスである。そこで、管理者は敢えて利用者の担当職員にアセスメント票の作成を任している。職員のスキルアップには一番有効と考え、管理者は職員との話し合いに随分の時間を費やしているようである。管理者のサポートもあり、計画書は利用者の状態に即したものになっていると言える。	現行の手法では、事業所の関係者は利用者本人を知っているため、記載表現にこだわる必要性はないかもしれないが、他者から見るとアセスメントや介護計画と齟齬があるように思える。管理者交代の時期でもあり、新人の職員のためにも言葉や表現にこだわった記載方法が望まれ、モニタリングの精度を上げる取組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 職員間で常に情報交換をし個別ケアに繋げ、介護計画の見直しにも活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じ、外泊、買い物などの外出等を取り入れ、一人一人のニーズに応えられるよう取り組んでいる	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 社会とのつながり地区祭、消防訓練、地域の学生達の訪問、家族会への参加等働きかけ、実施できている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 基本的には母体の伊予病院を利用するが、希望がある方は、本人 のかかりつけ医での受診をしている。必要に応じて受診しており、 医療連携はできている	
			(外部評価) 隣接している母体法人のリハビリテーション病院がほとんどの利用 者のかかりつけ医である。在宅復帰やへき地医療支援に力を入れて いた病院のため、入居前からかかりつけ医であった利用者も少なく ない。特別な診察が必要な利用者は他の専門病院がかかりつけ医で あるが、往診が可能な母体病院が日常の見守りを行っている。事業 所には看護職員はいないが、隣設して病院があることは、利用者にと つての安心感が高い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週1回訪問看護師が来ており、入居者の状態を報告指示をあおいで いる。看護師とは24時間連絡がとれるようしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行ってい る。	(自己評価) 入退院時は病院と連携がとれるようサマリー等も記入している。ま たカンファレンスもしている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 状況に合わせ、その都度、本人、家族の意向を聞いたりホームで できることを十分に説明し、主治医や訪問看護師とも連携を取り、方 針を共有しながら支援している。指針は、ある。	
			(外部評価) 当初、「法人全体で高齢者を支える」という方針で、その人の状態 に適している場所に住み変える仕組みであった。管理者は、事業所 のエレベーターにストレッチャーが乗らない、機械浴がないなどを その証だと言うが、少し前から本人や家族の意向を大切にしたいと 重度化の対応や看取りの取組みを行っている。医療行為はしないス タンスは当初と変わらず、管理者はその線引きを家族に丁寧に説明 し理解してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、壁に貼りすぐに対応できるようにしている。定期的ではないが初期対応の訓練を行ったりしている。また外部研修にも参加している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に消防訓練を行い地域との協力体制を築いている。母体である病院全体の防災訓練にも参加し連携を取っている (外部評価) 災害時の避難訓練は、事業所の年間スケジュールに組み込まれ、消防署の指導を受けながら定期的に行っている。病院や老人保健施設との連携も視野に入れており、大掛かりであり本格的でもある。避難計画書も備え、利用者の命を守るという思いで訓練を実践している。前面道路や病院等へのアクセスは急な坂道なので、避難訓練では机上で把握できないことが毎回起きており、課題を決めて真摯に取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 相手の立場に立ち、誇りやプライバシーを損なわないよう努めている。また温かみのある言葉かけをするよう努力している。また、勉強会や学ぶ機会を持ち意識向上を図っている (外部評価) 事業所が取り組んでいる「自分らしさや誇りを保った暮らし」は、人格を大切にすることの上に成り立っている。高齢者が誇れる暮らしには、自分が大切にされているという思いが重要で、まさしく人格の尊重である。昼食時、隣の利用者が「私が若い時には…」と繰り返し話しかけてきたことは、多分本人が一番輝いていた時代を説明したいのだろうと思う。来客へのおもてなしで利用者は話しかけているが、これができるのは事業所が利用者を尊重してくれる環境だからこそ、他人にも前向きな話題を提供できるのだと感じた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 尋ねるような言い方や声かけをし、些細なことでも本人が決められるような場面を作り、本人の希望に添えるよう努力している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限り、その人にあったケアプランを作成し、日々楽しく過ごせるよう支援している	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 個々にあった支援をしている。家族にも協力してもらうよう声かけしている	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) できる人に関しては職員と共に準備や下ごしらえ等をし達成感などを持って頂くよう心掛けている	
			(外部評価) 管理者は「食事は出汁を自分で取ったもので味付けしています」と簡単に答えているが、開設後16年間継続していることには、ただただ頭が下がる。利用者の状態の変化もあつただろうし、職員の変動もあつたにもかかわらず、利用者喜んでもらいたいという一貫した姿勢は崩さないことに、管理者の利用者への思いの深さを感じ取れる。「やっぱり人は食べるのが基本だし、何より楽しみですから」と調理の手間より利用者の楽しみを優先させているところからも理解できる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量は全員、水分量は必要な方のみチェックし、無理をしないように必要量が確保できるよう支援している	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食はしていないが、夕食後に1日1回、又は必要に応じて声かけし、口腔ケアをしてもらったり、介助したりしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人の身体機能に合わせ、トイレ誘導、介助を支援している。夜間も必要に応じ、ポータブルトイレを使用している	
			(外部評価) 昼間はトイレで排泄できるよう支援しているが、夜間は利用者によっては睡眠を優先するために紙おむつやパットも使用し、利用者の生活の質を見極めて対応している。入口の前にカーテンを吊っているトイレがあったが、「利用者が一人で車いすを使っている場合、扉を閉める動作が難しい利用者があり職員が付き添うのを嫌がるため」と説明を受けたところなど、さり気ない配慮であるが、利用者の尊厳を守る支援であると言える。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日のラジオ体操、個人での屈伸運動等、継続的に行っている。乳酸菌の含まれる食品を取り入れている	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その人の体調や気分に合わせて、入浴支援に努めている	
			(外部評価) 「利用者にゆっくりしてもらいたいから、入浴支援には時間をかけています」と管理者は話し、週2回の入浴が基本で1日3人程度の支援をしている。行事等で汗をかいた場合には、シャワー浴や足浴等も適宜提供しており利用者は満足している。職員は入浴支援時の利用者との雑談を楽しみにしており、1対1の利用者との会話はリラックスした状態で思わぬ本音も聞けるので、利用者理解の場として大切な時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の生活習慣を理解し、安眠や休息の支援に努めている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服用する薬の目的や副作用を理解し、飲み間違い、忘れがないよう注意をはらっている。調剤薬局や、訪看とも密に連絡し、確認をしている	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活の中でその人の得意とする家事や手作業等の役割を持てるよう支援している	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節による外出、個別ケアによる外出、家族との墓参り等、日常的に外出支援している	
			(外部評価) 母体法人の車両を使って遠出をする外出は年間行事で実施しているが、回数が限られているので、できる限り1階は庭に、2階は広いバルコニーで、外気浴するなどリフレッシュできるように支援している。自然の風や日差しを浴びることで季節を感じ、見当識障害の軽減を目指している。事業所が山の中腹にあり、眺めを遮るものがないため、道後平野が一望できる。夕暮れには夜景がきれいに見え、身近な庭で遠出をした感覚が味わえる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人、家族と話し合い、所持、管理可能な方には希望通りに使用できるように支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族との絵手紙の交換や電話連絡、携帯電話を所持している方もいる	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 車椅子7台が離合できるようにスペースを取り、季節の花を生けたりしている。居心地の良い空間作りのため、照明や空調による温度、湿度、管理など、配慮、工夫している。</p> <p>(外部評価) 事業所の敷地を広く確保しているため、建物もゆったりと造られている。車いすが二台すれ違える廊下とリビングダイニングが一体化しているデザインは広々としている。食事などくつろぎの時間は座る場所を変えることができ、居心地が良い。雨が降っても車いすでも利用者が毎日お参りができるよう1階の廊下の突き当たりにはお寺、2階には神社がある共用空間は利用者に好評である。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングだけでなく、廊下にもソファや椅子を置いたり、デッキにも椅子を置くなどし、工夫している</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室は広くて明るく、洗面台や押し入れも備え付けている。また好み合わせてソファ、タンス、机、仏壇、テレビなど馴染みのものや生活スタイルに合わせたものを持ち込み安心して過ごせるように努めている。家族の思い出の写真等飾るなど工夫している</p> <p>(外部評価) 居室は利用者によって家具等の持ち込む量に違いはあるが、どの部屋も自分の場所という居心地の良さが感じられる。法人所有のベッドを活用している利用者が多く、また、築16年の建物であるが、洗面器が各部屋に備えられ口腔ケア等衛生管理もできているほか、衣服も着やすいようきちんと整理されているなど配慮されており各部屋とも清潔感がある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) バリアフリーの環境であり、安全確保と自立への配慮をしている</p>	